

知事記者会見の概要

日 時：令和2年7月14日(火) 10:00～10:23

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) “明るいやまがた”夏の安全県民運動について

代表質問

- (1) 首都圏への移動について
- (2) 旧大沼の「閉店セール」について

フリー質問

- (1) G o T o トラベルキャンペーンについて
- (2) 代表質問に関連して
- (3) 「山形県における新型コロナウイルス感染症注意・警戒レベル」の見直しについて

< 幹事社：山新・時事・SAY >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。まず、新型コロナでありますけれども、昨日、本県で 72 例目、73 例目となる新たな感染者が確認されました。

いずれの方も首都圏から来県、帰省された方でありました。感染者が増加している東京都など首都圏からの人の移動に伴って、県民の皆さんへの感染が懸念されるところであります。県としましては、引き続き積極的疫学調査を実施しまして、濃厚接触のあった方に対しては、速やかに PCR 検査を実施するとともに、2 週間程度の健康観察を行います。もし、この間に症状が出た場合は、速やかに保健所に連絡いただくよう指導して、感染が拡大しないよう対応してまいります。封じ込めに全力を挙げるといことです。

県民の皆様には、感染予防の基本となる「新しい生活様式」、本当にこれが感染予防の基本となります。「新しい生活様式」を実践していただき、落ち着いて冷静に行動していただきたいと思います。また、事業者の皆様には、業種別の感染拡大予防ガイドラインがございますので、それを徹底していただき、できる限り普段どおりの生活・消費活動をしていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

次ですね、この度の令和 2 年 7 月豪雨災害では、九州地方を中心に関東甲信地方にかけて広い範囲で記録的な大雨となり、各地に甚大な被害が発生いたしました。お亡くなりになられた方々のご遺族の皆様、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

特に被害の大きい熊本県に対しまして、私からお見舞いの書簡をお送りし、支援の必要があれば遠慮なくお申し付けくださいというふうに申し上げておりました。そしてこの度、熊本県とお話をしまして、本県からの支援物資として、県産米、お米ですね、県産米をお送りすることといたしました。速やかに被災地に届けられるよう、具体的な調整を進めているところであります。

また、県庁ロビーをはじめ、各総合支庁に募金箱を設置して、義援金の受付を行っております。県民の皆様にはぜひご協力いただきますようお願いいたします。県民の皆様とともに、被災地の一日も早い復旧・復興を願っております。

では、私から 1 点発表がございます。

今月 22 日から 8 月 21 日までの 1 か月間、「『明るいやまがた』夏の安全県民運動」を実施いたします。

夏は、暑さによる気のゆるみや疲れなどから、交通事故や、海・山・川での事故の発生、さらに、夏休みの解放感から青少年の非行の増加や犯罪被害の発生が懸念されます。

このような事故を防止するとともに、青少年の健全な育成を図り、安全で明るいやまがたを創ることを目的に、新型コロナ対策にも万全を期しながらではありますが、「青少年の

健全育成といじめ・非行及び犯罪被害防止」、「子どもと高齢者の交通事故防止・飲酒運転の撲滅」、「海・山・川での事故防止」、「身近な犯罪等の防止」この4つを重点的に展開いたします。

今年度は、特に「新しい生活様式」を実践しながらの県民運動となりますが、この運動を通して、安全で安心な山形県づくりを展開してまいります。

初日の7月22日、午前10時から、県議会棟正面駐車場で出発式を行います。従来はですね、文翔館でやっておりましたが、規模を縮小してということになるのだと思います。県民の皆様には、本運動における積極的な取組みと、ご協力をよろしくお願いいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社、時事通信の早田と申します。質問が2点ございます。

まず1点目なのですが、首都圏への移動の自粛についてです。

東京では、新型コロナウイルスの感染者が、1日当たりの感染者が過去最高の水準まで達してしまっており、本県でもすごい警戒感が高まっています。東京をはじめ首都圏への移動について、引き続き慎重にするよう促すだけなのか、それとも移動の自粛を呼び掛けるのかお考えをお聞かせください。

もう1点ですが、大沼の閉店セールについてです。大沼百貨店の復活を目指すコンサル会社が、明日7月15日から閉店セールを開催します。今回のセールを通じ、大沼百貨店の復活や県都山形市の中心街活性化に期待することは何かございますでしょうか。

知事

はい、それでは、まず1点目から申し上げます。東京都では、7月9日から12日まで、4日間連続で200人を超える新規感染者が確認されました。埼玉県や千葉県、神奈川県でも増加が見られたところであります。

そして昨日ですね、本県内で新たに確認された感染者のお一人は東京都から来県された方、もう一人は埼玉県から一時帰省された方でありましたので、東京都などの首都圏の状況については、大変憂慮をしております。

本県ではこうした状況を踏まえ、県民の皆様に対して、東京都など感染者が増加している地域への不要不急の移動については、できる限り控えていただくようお願いをしているところであります。

首都圏の感染が拡大している間は、延期できるものは延期をしていただいて、またオンラインでできるものであれば、ICTを活用していただくなど、そういった工夫をしていただいて、首都圏などへの移動はできる限り控えていただきたいというふうに思います。

ビジネスなどでどうしても移動が必要な場合には、移動先でも「3つの密」を避けていただき、身体的距離の確保やマスクの着用、こまめな手洗いなど、「新しい生活様式」をしっかりと実践して感染予防に努めていただくようお願いいたします。特に、接待を伴う飲食店など夜の繁華街へのお出かけは控えていただきたいというふうに思っております。

医療専門家の方々からご意見をお聞きしたことがありましたけれども、移動そのものではなくて、やはり行った先でどういう行動をとるかが大事なのだということでありました。今私が申し上げたように、やはり「新しい生活様式」というものをしっかりと実践していただき、夜の繁華街へのお出かけは控えていただければというふうに思っております。

もう1点目でありますけれども、旧大沼本店において、元従業員有志と商業コンサルティング会社による「感謝閉店セール」が開催されることは報道で承知をしております。

一方で、旧大沼の土地・建物につきましては、現在、商業コンサルティング会社が現所有者と売買の交渉中であると伺っております。また、この物件につきましては、今後競売が実施される見込みとも聞いておりますので、今回のセールの状況も含めて今後の推移を見守ってまいりたいと考えております。

いずれにしましても、県都山形市の中心市街地の活性化というのは大変大事でありますので、山形市さんや地元商店街、商工団体など関係機関のお話も十分にお聞きをしながら、しっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

☆フリー質問

記者

TUYの鈴木です。今の東京の移動に関して、「Go Toトラベルキャンペーン」についてですが、新型コロナ感染者が東京で再び急増している中で、キャンペーンを利用して東京から観光客が山形県にやってくることに對して、率直なところ今どういうお気持ちを抱いているか、どう思っているか、お聞かせいただきたいのですが。

知事

はい、わかりました。国土交通省から「Go Toトラベルキャンペーン」を7月22日から一部先行して開始すると発表がありました。

最近の首都圏の感染状況や、この度の豪雨災害の状況等を踏まえますと、この時期に全国一斉にスタートするのはいかがなものかなと思っております。経済に資すると思っておりますが、感染増加の状況をみまますと、地方としては手放しでは喜ばないという思いであります。

山形県としましても、これまで全国知事会を通して、いきなりの全国一律の実施ではなく、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、まずは近隣地域の誘客から始めて、段階的に誘客範囲を広げていくことや、地域の実情に合った速やかな実施が可能となるよう、

各都道府県に十分な事業予算を早期に配分することなどを提言してきたところであります。

具体的に言いますと、山形県内で観光していただいて、また山形・宮城というふうに関連しましたけれども、東北地方とか、段階的に感染状況を見ながら広げていくということも考えられますので、県としてはそういったことを申し上げてきております。

できればこの全国的な感染拡大と言いますか、第2波がきつつあるような感じも受けまですので、一律にということではなくてですね、地域の実情に合ったやり方ということを地方にお任せいただければありがたい、というふうに思っております。

記者

共同通信の阪口といいます。よろしくお願ひします。大沼に関してなのですけれども、率直に閉店セールのことに関して、知事としてはその閉店セール自体をですね、どういうふうの評価されているのか、歓迎されるのか、それとももうちょっと競売のこともあって踏み込むべきじゃないと思っらっしゃるのか、その辺いかがでしょうかね。

知事

そうですね。元従業員の方々のお気持ちを考えますと、やはりお客様に対して感謝の気持ちを申し上げたかったというようなことも考えられますし、そして市民の皆さんもですね、これまでありがとうとおっしゃりたかったという気持ちもあるかなと思っらしております。そういう心情的なことはありますけれども、今後どうなるかというようなことにつきましてはですね、やはり競売というようなことも聞いておりますし、あと山形市さん、そして商店街の皆さんがどのようにお考えなのかといったこともちょっとお話を聞きながら、県としても中心市街地の活性化というようなことでお手伝いをしていければと思っらしております。

記者

このセールについては、評価はお控えになるということによろしいでしょうか。

知事

評価ですか。

記者

セールをされるということ自体に関して、知事が歓迎されるかどうかということ伺いたかったのですけれど。

知事

歓迎するとかしないとかではないかなと思っらしております。やはり長年そこでご商売をされてきた元従業員の方々ですね、お気持ちというものがやはりお客さんとの間に、もっ

とお互いに閉店というようなことに対しての、お互いのその感謝の気持ちを伝え合うと言いますか、そういったことはですね、私は自然なことではないかなと思っております。でもそれ以上についてのことはですね、評価とかいうことではないかなと思っております。

心情的なことは私も理解できますので、ただ、それ以上のことについては、やはり県が申し上げることではないかなというふうに思っております。

記者

すいません、もう1点。東京への移動なんですけれども、先ほどの言いぶりですと、以前からの知事の言いぶりとなんか変わってないと思うんですけど、自粛は要請されないということでしょうか。

知事

今の時点ではですね。

記者

今の時点で、要請されないということですね。わかりました。ありがとうございます。

知事

まず何よりも封じ込めに全力を挙げたいと思っておりますし、あと県民の皆さん、事業者の皆さんと一緒にですね、その新しい生活様式や新しいビジネス様式とも言うのでしょうか、ガイドライン、そういった徹底をしながらしっかりと予防していくことが大事だというふうに思っています。

記者

朝日新聞の三宅と申します。コロナウイルスに関してなのですが、昨日、2の方が、新たに感染が確認されて、第1波を乗り切ったというふうにみなされてから4の方が新たに感染したということになるかと思うのですが。これはもともと県が作っていたレベルでいうと、もうレベル2か、さらにもう1人感染なさらればレベル3になるんですかね。いずれにしても、今、見直しということをしていっしょに存じ上げてるんですけども、この状況でもレベル1のまま動かないということであるとすれば、そもそものレベルというものの自体の設定がですね、現実にはそぐわなかったということが今になってしてみれば言えるのかもしれないと思うのですが、そのあたりは知事としていかがでしょうか。

知事

そうですね、レベルの見直しにつきましてはですね、現行のものを策定した時と現在の状況では、状況がちょっと変わっているというふうに思っています。

それで、どういうふうに変わってきたかと言うと、1か月以上経ちまして、その頃に比べますと、検査体制や医療提供体制というものを拡充してきておりますし、また、県民の皆様の間にも、「新しい生活様式」の定着が進んでいると思います。完全には定着していないというふうに思っています。

それから事業所では、感染拡大予防ガイドラインに沿った取組みが行われてきております。ここもですね、完全ではないというふうに思います、途上であります。ですから、その取組みに対しての支援というのも打ち出しているところであります。

そして現在はですね、県民、事業者の皆さん、みんなで感染予防をしっかりと実践し、普段どおりの生活や仕事、消費活動など、社会・経済活動を継続していくことが求められている段階でありますので、こうした状況の変化を踏まえて、現在、注意・警戒レベルの見直しを検討しているところであります。

それで、先週の8日に県内の医療専門家の方々から、10日には「新型コロナ克服・創造山形県民会議」で各界各層の皆様方から、現在の注意・警戒レベルを見直すことについてご意見をお伺いしました。医療専門家からは、レベルの指標は目安として運用するのが良いといったご意見がありましたし、状況の変化に応じて指標や対応を見直していくべきといったご意見がございました。また、県民会議では、感染防止と経済回復を両立できるようにしていく必要があるといったご意見をいただいたところであります。

こういったご意見を踏まえて、現在、見直しの検討を行っているところでありますので、今後、県としての考え方を整理して、県民の皆様にお示ししてまいりたいと考えております。

もう未知のウイルスに対応していくということですね、やはり柔軟に対応していく、臨機応変に対応していくといったことも求められるかと思っておりますので、その時々状況と言いますか、様々な医療体制というようなものも見ながらですね、そして県民の皆さんのその新しい生活様式、それから隣県とか首都圏の状況、そういったことを本当に総合的に見ながら、しっかりと取り組んでいかなければいけないというふうに思っております。ですから、あの時の状況ではああいうことだったのかなと思っておりますし、今、現状に沿うような見直しをしていきたいというふうに思っています。

記者

見直しは、最終的には危機対策本部員会議ですか、それを経て見直された結果が打ち出されてくると思うのですけれども、スケジュール的にはいつ頃というような感じはありましようか。

知事

そうですね、もうできるだけ早いほうがいいとは思っております。県内で発生、また昨日も確認されましたので、そんなに時間をかけないほうがいいと思っておりますけれども、ただ、やはり専門家の方々のご意見もお聞きしながらということにもなるかと思っております。

で、中で議論を重ねて、なるべく早めというふうに思っております。

記者

今週中という形にはならないですか。

知事

今週中はできるかどうか、今週、来週ぐらいになるかどうかかなというふうに、私としては思っておりますけれども。担当にも聞かないと。

記者

わかりました。ありがとうございます。